

2025（令和7）年度入学試験問題

世界史

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で35ページです。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は、設問に従って、該当する解答欄にマークしてください。なお、すべてマーク解答問題です。解答にあたっては、必ず黒の鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し、該当するマーク欄を正確にマークすること。
 (機械処理上、非常に重要なので誤記のないよう注意してください。)
 - (2) 解答科目欄は、解答する科目を一つ選び科目の下のマーク欄を正確にマークすること。
 マークされていない場合または複数の科目にマークされている場合は、無効となります。
 - (3) 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
 - (4) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
 - (5) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
 - (6) 解答用紙の解答欄をマークするときは、次の(例)のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

(例) ③と解答する場合

マ ー ク 解 答 欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

I 以下の文章A, Bを読んで, [設問1] ~ [設問20] に答えなさい。解答は解答欄 ~ にマークしなさい。

A 近年, ジョージ=オーウェル『1984年』や, オルダス=ハクスリー『すばらしい新世界』, より最近ではマーガレット=アトウッド『侍女の物語』など, いわゆる「ディストピア」文学と呼ばれる作品群が, 狭い意味での文学的達成を超えた, 社会思想的な古典作品として頻繁に論じられるようになっていく。ディストピアとは, 理想郷と訳される「ユートピア」という言葉の中の「場所」を意味する「トピア」に, 「悪い」を意味する「デイス」を掛け合わせた「悪い場所」ないし「暗黒郷」を意味する言葉である。しかし, ディストピア文学はたんなる悲惨な世界の描出というよりも, ユートピアそのものがもたらす悲劇性を描く, その意味ではユートピア文学の一部として存在する。ここではディストピア文学の代表ともいえる『すばらしい新世界』を例に, そのユートピア文学との関係性について考えたい。

そもそもユートピアという言葉は, ⁽¹⁾ルネサンス期イギリスの思想家トマス=モアによる文学作品の題名に由来する。モアは, 1516年に出版された『ユートピア』において, 架空の哲学者ラファエル=ヒュトロダエウスが, 実在のフィレンツェ出身の探検家 の率いる「新大陸」探索の旅の4回目の途上で ^{たもと}袂を分かち, その後ユートピア島へと ^{たど}辿り着いたという設定の物語を描く。この島では, 労働や教育, さらにには財産が徹底的に公的に管理されて, 誰もが平等で幸福であるような理想的な国家が成立しており, それを見た者はその対比において ⁽³⁾ 囲い込み運動 に代表されるような現実のイギリス社会の腐敗にいやでも ⁽³⁾ 気づかされることになる。作品内では, ユートピアもヒュトロダエウスもあくまでも固有名として扱われているが, 実はギリシア語で前者は「どこにもない場所」, 後者は「大ほら吹き」を意味する言葉であり, モアはここで, の『愚神礼讃』や の『ガルガンチュアとパンタグリユエルの物語』などに代表されるルネサンス文学に特有の ^{かいぎやく}諧謔精神を發揮して, 非現実的な文芸的風刺としてユートピア社会を構想したのであった。このような, 実現可能性をいったん棚に上げたうえで, 現実の諸問題を浮かび上がらせるあ

る種の装置として理想的な社会を描く作品は、ユートピアという言葉に先立つユートピア文学ともいえる古代ギリシアにおけるプラトン『国家』から、19世紀のフーリエ『愛の新世界』に至るまで、数多く存在する。

だが、しばしば見逃されるところであるが、モアの『ユートピア』では、幸福なユートピア島の風習や制度を事細かに描写するに先立って、そうした理想を認識した哲学者ヒュトロダエウスが、それとはかけ離れた腐敗した政治を営む同時代のヨーロッパ各領域の支配者に、みずからの身を挺して助言や諫言をするべきかどうかという問いが、対話形式で展開されている。そこでは、理想郷への憧憬を内輪での話にとどめておきたいとするヒュトロダエウスに対して、著者の分身たる「モア」は、現実から逃避するのでもなければ、理想の実現を統治者に正面から掻き口説く^かのでもなく、巧みな演技によってまずは権力者に取り入り、支配権を握ってのちに徐々に理想を実現するような「現実的な哲学」を実践してはどうかと迫る。この提言は、その後の実際のモアが、彼の仕えた国王ヘンリ 8 世に対する忌憚なき諫言によって職位を奪われ、最終的には死刑に処されたことを思えば皮肉なものであるが、いずれにしても理想の実現をいかにして図るかという問題がユートピア論の主題のひとつであったことは疑いえないところである。それはいいかえれば、実現可能性と完全に無縁な仕方⁽⁶⁾で理想を説くことそれ自体にそもそも意味がありうるのかという問題でもある。

このように、理想郷の描写のみならずその実現方法の模索をユートピア文学のひとつの側面とするならば、20世紀以降の広い意味での——ディストピア性を含む——ユートピア文学は、この実現可能性の問題に別の仕方⁽⁷⁾で向き合ったところに特徴があるといえることができるだろう。すなわち、かつてはいかにして実現するかが問われたユートピアは、ここにおいては、現代の科学技術とそのさらなる発展の成果として、否応もなく実現してしまったものとして現われているからである。その典型が、1932年に出版されたハクスリーの『すばらしい新世界』である。この作品に描き出される「新世界」は、労働はいうに及ばず、人間の生と性のすべてが、出生から死にいたるまで余すところなく管理される幸福な社会を実現している。科学者であったハクスリーは、当時の遺伝⁽⁸⁾

学、生理学、生殖技術の発展を踏まえて——4半世紀後の新版序文では、核分裂の技術について知っていればまた別の物語を描いただろうとみずから回顧している——、それらがさらに高度化した果てに、労働や教育が全成員の欲望を最大限に満たすものへと最適化される社会を描き出したのであった。そこではユートピアは、同時代の地球上のどこかに仮構された実現すべき理想郷ではもはやなく、われわれにいずれ訪れる未来世界として示されることになる。

むしろそこでは、この未来世界が文字通りの「すばらしい」世界として讃えられるわけではない。むしろこのいずれ実現するであろう世界のある種のおぞましさが、戯画的な仕方で描き出される。その一部を見てみよう。舞台は、2540年のロンドンである。そこでは自動車の大量生産システムを創設したヘンリー=フォード⁽¹⁰⁾を神と崇めるがゆえに、自動車T型フォードの生まれた1908年を紀元とするフォード暦が用いられている。この世界では、あらゆる「出生」を培養瓶によって管理し、すべての新生児を生まれながらに優れた遺伝形質（アルファ、ベータ）と、劣った遺伝形質（デルタ、ガンマ、イプシロン）に振り分け、後者に対しては卵子への操作によってひとつの卵子から大量の同じ人間（「一卵性多胎児」）を生み出す仕組みが確立している。この「多胎児」はあえて知的および肉体的能力を制約されることで工場労働へと最適化され、なおかつその境遇に満足を覚えるべく幼少期から「条件づけ」されることで、安定した秩序が維持される。一方、優れた遺伝形質をもった支配階級は、労働を免れるばかりか、生殖から切り離された純粋な性愛を娯楽として誰もが無制約に享受し、あらゆる憂いは薬（「ソーマ」）で解決され、老いも技術的に克服され、死もまた恐怖の対象ではなく、60歳で誰もが若さを保ったままに苦しみをなく死亡する。

これらはきわめてグロテスクな仕方で誇張気味に表現されてはいるものの、われわれの欲望の延長線上のどこかしらに見据えられる世界であることは間違いのないであろう。物語は、このおよそ誰も疑問を挟むことのない、ある仕方で人間の欲望がすべて実現したユートピアに対して、出生時の試験管培養の手違いによって社会に適合しきれなかったマルクス=バーナード（カール=マルクスをモデルとする）、文明社会から取り残された「野蛮人」ジョン、主としてこ

の2人が抵抗し挫折するその顛末を軸に展開する。とりわけ後者は、誰もが幸福であるこの世界において、果敢にも「不幸になる権利」を回復することを求め、まさに幸福であるがゆえに何びとも見向きもしなくなった芸術、宗教、そして真理の価値を——シェークスピアの数々の台詞を日常会話で引用し尽くすといういささか滑稽な仕方でも——唱え続ける。しかしながら、26世紀には遠く及ばないこの21世紀の今日においてさえ、すでにしてこのジョンの訴えは風前の灯であるといわざるをえない。

このようにディストピア文学とは、理想に対置された暗黒という意味ではユートピア文学の対極にあるものではあるが、同時に、理想郷そのものの陰惨さへと目を向けさせることで、改めてわれわれの理想とするべき社会とは何かを問いかける、もうひとつのユートピア文学として理解することができるであろう。

〔設問1〕 下線部(1)に関連して、ルネサンスについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

- ①ルネサンスを推進した教養人の多くが、権力者による保護下で活動したため、既存の社会体制そのものを直接的に批判する運動とはならなかった。
- ②中国伝来の火器が改良され、鉄砲や大砲が発明された結果、従来の戦術が一変し、騎士の軍事的没落につながった。
- ③活版印刷の改良と紙の普及によって可能となった大量の印刷物が、宗教改革の一助となった。
- ④占星術や錬金術が否定され、実証的な観察と実験に基づく科学的方法が確立された。

〔設問2〕 空欄 に入る人物名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

- ①コロン (コロンブス) ②カボット ③アメリゴ=ヴェスプッチ
- ④カブラル ⑤マガリャンイス (マゼラン)

〔設問3〕下線部(3)に関連して、この囲い込み運動を18世紀の囲い込み運動（第2次囲い込み運動）と区別して第1次囲い込み運動と呼ぶ。イギリスのこの2つの囲い込み運動についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

- ①第1次囲い込み運動は、国内の毛織物生産の拡大を背景として展開された。
- ②第1次囲い込み運動の結果、多くの農民が土地を失った。
- ③第2次囲い込み運動は、国内の綿花生産の拡大を背景として展開された。
- ④第2次囲い込み運動の結果、新農法（ノーフォーク農法など）が普及して、農業生産が発展した。

〔設問4〕空欄 と に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

- ① a ラブレー b チョーサー
- ② a ラブレー b エラスムス
- ③ a チョーサー b ラブレー
- ④ a チョーサー b エラスムス
- ⑤ a エラスムス b ラブレー
- ⑥ a エラスムス b チョーサー

〔設問5〕下線部(5)に関連して、フーリエと同時期の社会主義者についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

- ①サン=シモンは、科学技術者たちが支配する産業社会を構想し、社会調和のための精神的支柱として新キリスト教を提唱した。
- ②プルドンは、生産や消費を共同で行なう団体「ファランジュ」の設立を説いた。
- ③ルイ=ブランは、生産協同組合である「社会作業場」の組織化・普及を説いた。
- ④マルクスは、万国の労働者の団結を呼びかけ、革命による社会主義の実現を説いた。

〔設問6〕下線部(6)に関連して、16世紀のヨーロッパ各領域の支配者についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

- ①神聖ローマ皇帝カール5世は、当時の西ヨーロッパの約半分を領土とし、古代以来の単一ヨーロッパ帝国の再興を目指した。
- ②神聖ローマ皇帝カール5世は、イタリア戦争におけるフランスへの対抗から、オスマン帝国スレイマン1世の協力を取り付けた。
- ③スペイン王フェリペ2世は、ポルトガルの王位も兼ねて、広大な植民地を含む「太陽の沈まぬ帝国」を手中にした。
- ④スペイン王フェリペ2世は、オスマン帝国の海軍をレパント沖の海戦で破って威信を高めた。

〔設問7〕 下線部(7)に関連して、ヘンリ8世についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 7 にマークしなさい。

- ①バラ戦争に勝利して、テューダー朝を創始した。
- ②統一法を定めてカトリック圏を離脱した。
- ③修道院を解散してその土地や財産を没収し、国民に払い下げた。
- ④ドレークらの率いる私掠船にスペインの銀輸送船団を襲撃させた。

〔設問8〕 下線部(8)に関連して、遺伝の法則を発見した人物はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 8 にマークしなさい。

- ①メンデル ②ヘルムホルツ ③ファラデー ④コッホ ⑤マルコーニ

〔設問9〕 下線部(9)に関連して、核実験禁止や核戦力制限・削減のための条約の調印ないし採択の年を、古い順に並べたものとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 9 にマークしなさい。

- ①部分的核実験禁止条約 → 核拡散防止条約 → 中距離核戦力全廃条約
→ 包括的核実験禁止条約
- ②核拡散防止条約 → 部分的核実験禁止条約 → 中距離核戦力全廃条約
→ 包括的核実験禁止条約
- ③部分的核実験禁止条約 → 核拡散防止条約 → 包括的核実験禁止条約
→ 中距離核戦力全廃条約
- ④核拡散防止条約 → 部分的核実験禁止条約 → 包括的核実験禁止条約
→ 中距離核戦力全廃条約

〔設問10〕下線部(10)に関連して、フォードはベルトコンベアによる「組み立てライン」方式で、それまで上級階級用であった自動車を大衆車として安く大量に提供することで、大量生産・大量消費社会の形成に寄与した。このフォード車の普及に象徴される1920年代のアメリカについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **10** にマークしなさい。

- ①都市中間層が社会の中心層となり、ラジオ、映画、スポーツ観戦などの大衆文化を支えた。
- ②3代にわたる民主党政権下で革新的な機運が強まり、労働組合運動が活発化した。
- ③対外的には国際連盟に参加せず、孤立主義の傾向を強めたが、国際協調には積極的に関わり、海外での経済活動を活発に展開した。
- ④新しい産業が発展し、北部で工業化がすすむと、仕事を求めて黒人が南部から北部へと大量に移住した。

B 現在、この国では少子化による人口減少が大きな問題として取り上げられている。そこでは人口減少の意味を問わないまま、その減少を食い止めるための対策を求めるのに急である。しかし現代社会では、子を産み育てることに対する人々の意識も多様化しているため、それに対応した一律の対応策を打ち出すのは困難な状況のようである。そもそも人口減少が何故問題なのかを含め、もし人口減少への対策を考える場合には、その多様な原因の一つ一つを探り、それにもとづいたさまざまな議論が必要となろう。もとよりこの問題に対して歴史学ができることは限られている。ここでは、中国における古代からの人口増減の推移をふりかえり、その意味を考えてみたい。

中国歴代王朝における人口は、きわめて珍しいことではあるが、古くから知ることができる。それは戸籍制度の成立と深く関係している。戸籍制度は、遅くとも戦国時代には成立していたと考えられている。戦乱の続く戦国時代、分裂して覇を争っていた各国は「耕戦の民」という語が生まれるように、それまで兵士になっていなかった農民までも兵士として徴発する政策が立案され

た。それを実現するためには農民の家族を正確に把握し、その家族から成年男子をいっせいに徴発する方法が必要となった。その農民の家族を正確に把握する方法が戸籍の作成であった。ある王朝の時代には、毎年陰暦8月に個々の集落で戸ごとの家族構成員（夫妻・親子関係）や年齢などが調査され、それらを記した戸籍が作成され、その戸籍が県に集められ、さらに各県から中央にその家と人の総数（戸口数）が報告されるという人口把握制度が存在した。手工業者や商人については、農民とは別のそれぞれ異なった簿籍が作成されていた。そのため中央において、各県から報告された農民、手工業者や商人の家族の数（戸数）、家族員の数（口数）を合計すれば、王朝全体での戸口数は把握できることとなる。こうして歴代王朝がその戸口数のうちの幾年か分を記録として残した⁽¹²⁾ことで、私たちは各王朝の人口増減のおおよその推移をつかむことが可能となっている。

下の表は、そうした歴代王朝の記録のなかから、とくに人口の増減がうかがわれる時期に着目してまとめたものである。

王朝	年代（紀元後）	人口（人）
A	2	59,594,978
B	280	16,163,863
C	754	52,880,488
	760	16,990,386
D	1100	44,914,991
E	1393	60,545,812
F	1711	24,621,324
	1747	171,891,773
	1851	432,164,047

この表からは、18世紀初めまでは、人口の増減が著しく、それ以降は急激にその数を増大させるという傾向となる。もちろんこの数字は、あくまでもその時代の王朝が把握できた人口であり、実際の人口を必ずしも正確に示しているものではない。しかしこの表にみられるいくつかの人口減少の時期と、その時

の歴史的な出来事との関係を見ることで、人口が減少した原因の一端を推測することも可能となる。

表の王朝Aの時代は、その王朝の末期ではあったが、前近代の中国の歴史のなかでもかなり多くの人口を抱えていた。王朝Aはその後に一時途絶えたが、その王朝の一族といわれた者によって復活された。ただこの後継となった王朝も末期になると農民反乱が勃発し、それが一因となった農村の荒廃によって衰退し、やがては滅亡する。その後に分裂状態となった社会を統一したのが王朝Bであった。この王朝が把握した人口は、王朝Aの時期に比べると大幅に減少している。この王朝は、荒廃した農村の復興を試みたが、人口の回復までには至らなかった。そのうえこの王朝も、内乱の勃発と北方諸族の侵入によって滅亡する。その後この王朝の一族は、華中の長江流域に逃れて新たな王朝を築き、華北には北方諸族が王朝を建てたために、中国は再び分裂時代に入った。

王朝Cの時代でも、表の754年と760年とを比較すれば、後者では王朝が把握できた人口が激減している。この王朝は、建国当初からの国力強化策によって安定した社会を実現させた。しかしそれも後に動揺することになる。表にみえるように6年間というきわめて短い期間で人口を激減させた原因には、この期間に起こった内乱と、それにとまなう王朝支配の衰退を挙げることができる。王朝は、この衰退をくい止めようと税制改革などを試みたが衰退から回復することなく、この王朝は滅亡し、中国は再び分裂期に入った。

この分裂を統一したのが王朝Dであった。この王朝は、諸改革を断行し分裂していた社会を中央集権体制でもって統治しようとした。さらにこの時期には商業が発展し、そのことも合わせて王朝が把握する人口も増加傾向をみせた。しかしこの王朝は、建国当初から北方・西方に存在した諸族による圧力に苦しみ続け、また国内でも11世紀後半よりはじめられた諸改革に対し、党争が激化し政治的な混乱を深め、これらが内憂外患となって王朝の権力を動揺させた。

少し時代が下って、王朝Eは中国史上はじめて江南を根拠地として中国を統一した。この王朝の時代には、農業生産をはじめ、手工業や商業も著しく発展した。こうした発展をうけて社会も安定し、王朝が把握する人口も着実に増加していった。しかし北方のモンゴル諸族の進入などに苦しめられた。

王朝Fの時代、王朝が把握する人口は、それまでの激しく上下するという不安定な状況であったものが、増大する方向に転じた。これは前王朝から続いて多くの富（銀）が中国に流入するようになっていたことも原因として挙げられる。その影響のもと、18世紀はじめに一部地域で導入され、その世紀の前半までには全国で実施されることになる税制改革も人口増加の一因となった。その改革は、それまでの一人一人に課せられていた人頭税という概念を消滅させ、土地税に一本化するというものであった。すなわち人頭税が廃止されたことにより、人々には人頭税を少なくするために戸籍を過少に登録する必要がなくなった。そのために戸籍へのより正確な登録がなされ、王朝が把握する人口である戸籍登録者が増加することとなった。

19世紀半ば中国は、ヨーロッパ主導によって一体化された世界市場に編入されるが、その後の中国の人口は、ある時期を除いて増大することになった（ただ現在の中国は人口減少のなかにある）。

以上、前近代中国における人口の推移をみてきた。人口減少にはさまざまな原因があったが、とくに政治の混乱による農村社会の荒廃が、そのなかでも大きなものの一つに挙げられることは間違いない。

[設問11] 下線部(11)に関連して、戦国時代についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄

11

 にマークしなさい。

- ①周は王家を維持していたが、洛邑に遷都せざるを得なくなった。
- ②鉄製農具を利用して農耕地の開発が進められた。
- ③商業が発達し、各国で円形の青銅貨幣が流通した。
- ④官僚制度の発展は、紙による文書行政の発達が一因となった。

〔設問12〕 下線部(12)に関連して、下の表は主として『漢書』以降の「正史」にある記録である。「正史」についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **12** にマークしなさい。

- ① 『史記』は殷から前漢の高祖の時代までを叙述し、その書式は後の「正史」の基本形式となった。
- ② 『漢書』は、西域都護となった班昭の兄である班固が前漢一代を紀伝体の書式で著した。
- ③ 『後漢書』には大秦国が絹を求めて漢への使者の派遣を試みしたが、当初は安息国が妨害して果たせなかったとの記述がある。
- ④ 『三国志』は西晋時代に著され、後に講釈師の語りなどにもとづいて宋代に『三国志演義』が編纂された。

〔設問13〕 下線部(13)に関連して、この王朝についての下記(a), (b)2つの文の正誤の説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **13** にマークしなさい。

(a) 呉楚七国の乱が鎮圧された後、武帝のときに中央集権化が進み、さらに武帝は東方の楽浪郡や西方の敦煌郡、南方の日南郡などを設置し勢力拡大をはかった。

(b) 均輸・平準法の実施や塩・鉄・酒の専売を行なって対匈奴戦争で逼迫した財政の再建を試みた。ただ重税を課したため奴隸や小作人に没落する農民が続出し、それを使役する豪族が台頭するようになった。

- ① (a), (b)の文は両方とも正しい。
- ② (a)の文は正しく、(b)の文は誤り。
- ③ (a)の文は誤りで、(b)の文は正しい。
- ④ (a), (b)の文は両方とも誤り。

〔設問14〕 下線部(4)に関連して、この王朝についての下記の(a), (b)2つの文の正誤の説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

(a)この王朝は豪族層の支持を受けて成立したが、2世紀半ば以降には外戚と宦官とが権力抗争を展開しながら勢力を伸ばすなか、外戚が宦官を弾劾する党錮の禁をおこした。

(b)王朝末期には政治の混乱と自然災害の頻発によって農村は疲弊し、張角が農民を組織して反乱をおこした。この反乱は鎮圧されたが、社会は群雄割拠の状態となり、この王朝を滅亡へと向かわせた。

- ① (a), (b)の文は両方とも正しい。
- ② (a)の文は正しく、(b)の文は誤り。
- ③ (a)の文は誤りで、(b)の文は正しい。
- ④ (a), (b)の文は両方とも誤り。

〔設問15〕 下線部(5)に関連して、この王朝についての下記の(a), (b)2つの文の正誤の説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

(a)統一に成功したこの王朝は、荒廃した農村を回復するために土地所有に制限を設けながらも自作農に土地を確保させる屯田制を施行し、自作農から田租と庸と調とを徴収して国家財政の安定化をはかった。

(b)豪族勢力はますます権力を伸ばし、そのなかには村落を自衛し、没落した農民を受け入れて荘園経営をする者も現われた。その一方で没落した農民の間には法頭らが指導する仏教が広まった。

- ① (a), (b)の文は両方とも正しい。
- ② (a)の文は正しく、(b)の文は誤り。
- ③ (a)の文は誤りで、(b)の文は正しい。
- ④ (a), (b)の文は両方とも誤り。

〔設問16〕 下線部(16)に関連して、この王朝についての下記の(a), (b)2つの文の正誤の説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **16** にマークしなさい。

(a)律令制度を整備し官僚機構を確立し、土地制度である均田制に対応した税役制と募兵制をあわせて実施することで安定した政治状況となり、都の長安はユーラシア大陸の東西から商人や使節が集まる国際都市となった。

(b)節度使らによる反乱の最中に、財政再建のために塩の専売が実施された。しかしそれが塩の密売人を横行させた。その密売人たちによって引き起こされた反乱がこの王朝の権威を失墜させた。

- ① (a), (b)の文は両方とも正しい。
- ② (a)の文は正しく, (b)の文は誤り。
- ③ (a)の文は誤りで, (b)の文は正しい。
- ④ (a), (b)の文は両方とも誤り。

〔設問17〕 下線部(17)に関連して、この王朝についての下記の(a), (b)2つの文の正誤の説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **17** にマークしなさい。

(a)節度使を廃して、文人官僚を重用する文治主義を採用し皇帝専制主義を確立した。しかし北方諸族との対応などのために財政が逼迫するなか王安石の新法が断行されたが、旧法党との党争を繰り返すことになり政治は混乱した。

(b)占城稻が導入され長江中流域が穀倉地帯となり、商業も発展して農村が全国市場につながる展開となり、農村には行という手工業者の組合も組織された。また海路による高句麗や日本との貿易や南海貿易も盛んとなった。

- ① (a), (b)の文は両方とも正しい。
- ② (a)の文は正しく, (b)の文は誤り。
- ③ (a)の文は誤りで, (b)の文は正しい。
- ④ (a), (b)の文は両方とも誤り。

〔設問18〕 下線部(18)に関連して、この王朝についての下記の(a), (b)2つの文の正誤の説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **18** にマークしなさい。

(a)中書省を廃止し皇帝直属の六部を創設し、土地調査にもとづく賦役黄冊、人口調査にもとづく魚鱗図冊を作成し収税の確保に努めた。しかし農民の流動は止まらず、張居正は検地や戸口調査を行ない農村の再建を試みた。

(b)穀倉地帯が長江中流域から下流域に移り、一方で大規模なネットワークを形成した蘇州出身の新安商人が登場し、陶磁器などが海外に輸出され、倭寇がばっこ跋扈するなか日本銀が大量に流入した。

- ① (a), (b)の文は両方とも正しい。
- ② (a)の文は正しく、(b)の文は誤り。
- ③ (a)の文は誤りで、(b)の文は正しい。
- ④ (a), (b)の文は両方とも誤り。

〔設問19〕 下線部(19)に関連して、この王朝についての下記の(a), (b)2つの文の正誤の説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **19** にマークしなさい。

(a)康熙帝・雍正帝・乾隆帝の時代に最盛期を迎え、この王朝の版図に入ったモンゴル・チベット・新疆などの地に対しては、直轄地とは区別された藩部として自治を認めた。

(b)人口の急増をうけて、山地を開墾しトウモロコシやサツマイモなどの栽培を奨励した。貿易においても陶磁器・茶・刀などの輸出が増加し大量の銀が流入することで、土地税に一本化した一条鞭法が創設された。

- ① (a), (b)の文は両方とも正しい。
- ② (a)の文は正しく、(b)の文は誤り。
- ③ (a)の文は誤りで、(b)の文は正しい。
- ④ (a), (b)の文は両方とも誤り。

〔設問20〕下線部(20)に関連して、大幅に人口が減少した時期の一つに大躍進とよばれる政策が実施された時代があった。大躍進についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **20** にマークしなさい。

- ①軽工業の発展を第一として、製糸業の拡大、綿花生産の増大を目指す政策であった。
- ②この政策は、ソ連と連携して社会主義国家を確立するために遂行された。
- ③人民公社が編成され、民衆の力によって政策の達成が目指された。
- ④この政策は膨大な餓死者を出して失敗に終わったが、推進した毛沢東は国家主席に留まった。

- II 以下の西洋における人為と無為についての文章を読んで、〔設問21〕～〔設問35〕に答えなさい。解答は解答欄 21 ～ 35 にマークしなさい。

西洋の思考様式は、しばしば、「無為」との対比において秩序を「人為」⁽²¹⁾的な構築物として理解するところに特色があるものと理解されている。しかし、西洋古来の思想史を振り返ってみると、かの地においても「無為」を重んずる考え方は、人為の行き過ぎに対するある種の反発として繰り返し唱えられてきたことがわかる。以下、西洋における「無為」的なものの特徴を、歴史的に考察してみよう。

まず、この「無為」の考え方は、西洋文化の始まりに位置する古代ギリシアにおいて、「ノモス (人為)」に対する「ピュシス (自然)」として概念化された。たとえば、古代ギリシア文化の中心地アテネ⁽²²⁾においては、紀元前5世紀ころから、ソフィストと呼ばれる知識人が活躍したが、彼らの主張の中心には、この世界の決まりごとというのは自然なものではなく、人間がそのときどきの都合によって取り決めたにすぎないものであるという考え方があった。この思考様式はソフィストの代表的人物のひとりである 23 による格言「万物の尺度は人間である」に端的に表現されている。すべては人間次第であるという宣言とも読めるこの言葉には、西洋文化の核のひとつともいえる人為的な秩序形成の意志を見ることができよう。

しかし古代アテネにおいては、それと同じ時期に、そのような人為的な秩序構築を諷^{いさ}める思想も広く受容された。たとえば 24 の『オイディプス王』や『アンティゴネー』といった悲劇作品では、国王が神の定めた運命から逃れようとしたり、神の掟に反する人為的な法を優先しようとしたりすると、悲惨な報いに見舞われる。観客はこうした物語に触れる中で、人の手ではどうにもならない自然の力への畏敬の念を取り戻し、人間の陥りがちな傲慢さへの戒めを再認したのであった。

古代ローマにおいても、人為と無為のこの対立は再演される。まずローマ共和政⁽²⁵⁾期の政治家・知識人であるキケロは、政治的共同体において自然に進行する腐敗を食いとめるための最善の国制として共和政を擁護する論陣を張った。キケロ

によれば、共和政とは国家の君主的部分、貴族的部分、民衆的部分の3つがそれぞれ権力を分有している体制であって、誰もが統治の一部をみずから担うものとして受けとめることを強られる。それゆえに、共和政の成員は、公的なものを誰かに委ねるような受動性に陥ることなく、政治への能動的な関与を維持することが可能になるのである。そうした観点から、キケロは、この共同体を一個の党派によって私物化しようとする²⁶独裁者²⁶に対しては、市民が果敢に武器を取って闘うべきであると説いたのであった。

だが、キケロの抵抗も虚しく共和政が倒れ帝政に移行すると、統治権力は皇帝ひとりのものとして掌握され、民衆がそこに口を挟む余地は限定されていく。それにともなって浸透していったのが、みずから降りかかる苦難を、運命ないしは摂理としてあるがままに受け入れようとするストア派の思想であった。ストア派の代表的人物 27 は、皇帝ネロによって自殺に追い込まれた哲学者としても知られるが、そうした苦しみを摂理として意味づけるような世界全体の不変の秩序を観想することによって慰めを得ることを説いた。そこにはみずからの人為性によって現実を変えるのではなく、あるがままの現実を自然なものとして受け入れるというかたちで目の前の苦難に向き合うという立場が示されている。

さらにこれに続いて、より民衆的次元においては、人間はもともと罪深いがゆえにいかなる善行も自力では為しえないとする²⁸キリスト教²⁸の思想が広まった。帝政末期に、このキリスト教の教義を集大成した教父 29 は、支配によって人為的に秩序をつくらうとする世俗権力を、人間の思い上がりの現われとして断罪した。もともと彼は、世俗権力に現世の平和を維持するという限定的な役割をなおも認めてはいる。だが、そこにおいてはキケロに見られたような世俗権力の積極的意味づけは、跡形もなく消失してしまっているのである。

ルネサンス期になると、こうしたキリスト教的枠組みを克服する思想が生まれる。その典型が、マキアヴェリによる運命と「力量」についての議論である。マキアヴェリは、当時共和国であった³⁰フィレンツェ³⁰の書記官として政治の現実に関わっていたが、共和政が崩壊して、自身も解任されると、新たに君主に就いたメディチ家に雇用されようとして、君主のあるべき姿を説く『君主論』を著した。そこで主張されたのは、君主は従来のキリスト教的倫理に囚われずに、必要に応

じて冷酷さや暴力を巧みに用いること（「力量」）によって、みずから運命を切り開くことができるという立場であった。ここからマキアヴェリは、人間はたしかにその半分は運命の気まぐれによって翻弄されざるをえないが、残りの半分は自分の力で動かすことができるという人為的力への信頼を宣言したのであった。

マキアヴェリのこの運命論は、人間の力の余地をせいぜい半分程度に見積もるという意味ではそれ自体としては穏当なものともいえるが、しかしその露悪的な叙述の効果も与って、彼の教えは目的のためには手段を選ばないといういわゆる「マキアヴェリズム」として広まっていった。とりわけ、その後フランスに生じたカトリックとプロテスタントの宗教戦争⁽³¹⁾においては、カトリックの国王がプロテスタントを虐殺した事件が起き、しかもその国王を操っていると目された摂政カトリーヌ＝ド＝メディシスが、マキアヴェリの『君主論』の献呈相手であるウルビーノ公ロレンツォ＝デ＝メディチの娘であったことも関係して、無慈悲さを厭わずに「力量」を発揮する政治というものに対する嫌悪感を高めることになった。

そうした中で、知識人層において一定の支持を集めたのが、近代におけるストア派ともいべきモンテーニュの政治的無為の勧めであった。モンテーニュはもともと政治家として活躍していたが、あるときその地位を退いてみずからの実家の塔に籠もり、現実と距離をおいた地点から、人間や社会の真実についての著述を続けた。その結論のひとつは、人間にとって内戦によって生まれる残酷な事態は何よりも避けるべきものであって、榮譽や野心という「贖金」^{にせがね}の追求とは異なる、健康、生命、平安といった実質的な価値を求めべきというものである。政治から身を退けるその立場は、モンテーニュ自身みずからを規定していうように「弱虫」たることに甘んじることではあるが、マキアヴェリ的^{たくま}な逞しい政治はそれにふさわしい人間に委ねておこうという受動的諦念は、無責任と謗られようとも、内戦の吹き荒れる時代においてある種の貴重な政治的メッセージとして機能することになる。

さて、人為と無為のこの対立が最高潮に達したのが、フランス革命であった。革命は突然に生じたのではなく、まずはその思想的源泉ともいえる啓蒙思想の広まりがあった。たとえば、啓蒙思想の代表的担い手であるヴォルテール⁽³²⁾は、1755年のリスボンの大地震のようないわれなき犠牲を生み出す自然災害をわれわれは

正しいものとして肯定できるかと問う。無為であるということが、自然をそのままに受け入れることであれば、何の罪もない子どもを犠牲にする大地震も、自然なものとして受容せざるをえないことになる。それを認めることのできないヴォルテールは、もはや自然に頼ることなく、われわれ自身の地道な人為によって少しでも正しい社会を構築していくべきであると唱える。同じく啓蒙思想家として知られるルソーは、ヴォルテールとは違って自然に対しての立場は必ずしも否定的ではないが、彼の政治学的主著『社会契約論』に関していえば、それは民衆の意志に基づく正しい秩序の構築を求めるものであった。フランス革命は、人為的な秩序を志向するこうした心性を背景として生まれたものである。

しかし、こうした人為的な秩序構築の試みが、人権宣言³³や封建的特権の廃止などの成果を生む一方で、対外戦争や王の処刑、恐怖政治といったさまざまな悲劇をもたらしたことも事実である。ここで思想的な影響力を発揮し始めたのが、革命に対する批判的な視点からこの混乱を取束させようとする反革命思想であった。たとえばイギリスのバークは、革命の初期段階においてその試みの危険性を見抜き、イギリスにその影響が及ばないように自国の国制を保持することを説いた。また、サルデーニャ王国領サヴォイアのメーストルは革命軍の侵攻によって亡命を余儀なくされた思想家であるが、彼は革命およびそれを軍事的に倒壊させようとする反革命³⁴のいずれをもあまりにも人為的な秩序構築の試みであるとして批判し、現実を神の摂理に委ねるという無為の立場こそが、結果として秩序の自然な再生をもたらすという視点を提示したのであった。

以上のように、西洋においては、人為的な秩序構築とそれへの反発としての無為への憧憬の両軸のあいだを揺れ動きながら、さまざまな思想が展開されてきたものとみることができよう。

〔設問21〕 下線部(2)に関連して、中国の諸子百家のうち、人為を否定して無為自然に従うことを唱えた学派はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄

21

 にマークしなさい。

- ①墨家 ②法家 ③道家 ④名家 ⑤縦横家

[設問22] 下線部(22)に関連して、アテネについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 22 にマークしなさい。

- ①前490年のマラトンの戦いに勝利したアテネは、その後テミストクレスの尽力によって海軍を拡充してサラミスの海戦でも圧勝した。
- ②前5世紀半ばころ、将軍ペリクレスの下でアテネ民主政は完成し、そこでは民会での多数決によって国家の政策を決定した。
- ③前431年に生じたペロポネソス戦争に敗北したアテネでは、ペイシストラトスをはじめとする僭主によって支配される衆愚政治に陥った。
- ④前338年のカイロネイアの戦いで、アテネはフィリッポス2世率いるマケドニアに敗北を喫した。

[設問23] 空欄 23 に入る人物名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 23 にマークしなさい。

- ①エピクロス ②プロタゴラス ③ヘラクレイトス ④デモクリトス
- ⑤エウクレイデス

[設問24] 空欄 24 に入る人物名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 24 にマークしなさい。

- ①アイスキュロス ②エウリピデス ③アリストファネス
- ④ソフォクレス ⑤サッフォー

〔設問25〕 下線部(25)に関連して、ローマ共和政についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **25** にマークしなさい。

- ①ローマ共和政は、もともと貴族が公職を独占していたが、重装歩兵として戦いに参加した平民はしだいに政治的要求を強めて身分闘争を開始し、徐々に権限を獲得していった。
- ②ローマ共和政は、1名の執政官、300人の貴族からなる元老院、全市民からなる民会によって運営された。
- ③ローマ共和政が拡大するにつれ、たえまない外征によって国防の主力を担う農民層が疲弊し、荒廃した土地を富裕層が買い集め戦争捕虜を奴隷として使役するラティフンディアが広まった。
- ④農民の没落に危機感を抱いたグラックス兄弟が、中小農民の再建を目指した改革を試みたが成功せず、これ以降、閥族派と平民派の対立が先鋭化した。

〔設問26〕 下線部(26)に関連して、キケロが対峙した独裁者がカエサルであった。カエサルについての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **26** にマークしなさい。

- ①閥族派であったが、平民の支持も得た。
- ②ポンペイウス、レピドゥスとともに第1回三頭政治を行なった。
- ③内戦に勝利して独裁官となったうえに、その後、終身の独裁官となった。
- ④遠征の経験に基づいて『ゲルマニア』を執筆した。

〔設問27〕 空欄 **27** に入る人物名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **27** にマークしなさい。

- ①エピクテトス ②セネカ ③プリニウス ④ウェルギリウス
- ⑤オウィディウス

〔設問28〕 下線部(28)に関連して、キリスト教についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **28** にマークしなさい。

- ①キリスト教において救世主とされることになるイエスは、ユダヤ教の律法主義と祭司たちの墮落を批判した。
- ②キリスト教徒の中にはエジプトの砂漠に住み苦行に励む者が現われ、この苦行者を慕う者が群れをなした。
- ③ニケーア公会議において、キリストを神と同一視するアタナシウス派が正統教義とされ、キリストを人間であるとするアリウス派は異端とされた。
- ④キリスト教は4世紀にはテオドシウス帝による大規模な迫害を受け、多くの殉教者を出した。

〔設問29〕 空欄 **29** に入る人物名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **29** にマークしなさい。

- ①トマス=アキナス ②エウセビオス ③オッカム
- ④アンセルムス ⑤アウグスティヌス

〔設問30〕 下線部(30)に関連して、フィレンツェは1494年開始のイタリア戦争に巻き込まれる中で周辺諸国との緊張関係を強いられるようになる。この戦争の勃発時に在位していた周辺諸領域の指導者として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **30** にマークしなさい。

- ①フランソワ1世 ②マクシミリアン1世 ③カール5世
- ④エリザベス1世 ⑤レオ10世

〔設問31〕 下線部(31)に関連して、フランス国内のカトリックとプロテスタントの宗教戦争についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **31** にマークしなさい。

- ①この内戦は、アンリ4世が、ユグノーに信仰の自由を認めることで、終結した。
- ②この内戦には、スペインとイギリスがカトリック側を援護して介入した。
- ③この内戦は、断続的に30年以上にわたって繰り広げられた。
- ④この内戦の中では国王の暗殺も生じた。

〔設問32〕 下線部(32)に関連して、この啓蒙思想家を宮廷に招いた君主であり、宗教寛容令を出したことでも知られる人物はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **32** にマークしなさい。

- ①フリードリヒ2世 ②マリア=テレジア ③ピョートル1世
- ④ヨーゼフ2世 ⑤スタニスワフ2世

〔設問33〕 下線部(33)に関連して、フランス革命における人権宣言が男性の権利を擁護するものでしかないと批判し、それへの対抗として『女性の権利宣言』を刊行した人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **33** にマークしなさい。

- ①ボーヴォワール ②オランプ=ド=グージュ ③コンドルセ
- ④ロラン夫人 ⑤ローザ=ルクセンブルク

〔設問34〕 下線部(34)に関連して、フランス革命の渦中にフランスへと併合されたサヴォイアは、その後再びサルデーニャ王国下に戻ったが、1861年のイタリア統一の前年、ある地域をサルデーニャ王国へと併合する代償としてフランスへと譲りわたされた。サルデーニャ王国へと併合されたこの地域とはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **34** にマークしなさい。

- ①両シチリア ②ニース ③トリエステ ④南チロル
⑤中部イタリア

〔設問35〕 下線部(35)に関連して、フランス革命およびそれを引き継いだナポレオン体制への軍事的対抗として幾度も結成された対仏大同盟についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **35** にマークしなさい。

- ①第1回対仏大同盟は、ルイ16世の処刑を契機に、オーストリアの皇帝が呼びかけて、イギリス・プロイセン・スペインなどとともに結成した。
②第1回対仏大同盟への対抗としてなされたフランス国内の徴兵制は、地方における反発を招き、反乱とその暴力的鎮圧という事態にいたった。
③第2回対仏大同盟は、ナポレオンのエジプト遠征を契機に、イギリスがロシア・オーストリアなどとともに結成した。
④第3回対仏大同盟は、イギリスがロシア・オーストリアなどとともに結成したが、アウステルリッツの戦いにより崩壊した。

- Ⅲ 以下の歴史論についての文章を読んで、〔設問36〕～〔設問50〕に答えなさい。
解答は、解答欄 36 ～ 50 にマークしなさい。

19世紀半ば中国と日本は、欧米によって相次いで世界市場に編入されていった。両国はこの危機的状況から脱出する方法を模索した。日本においては明治以降、政治体制においては天皇制を中心にした中央集権化がはかられることになった。そのなかで中国では1911年に辛亥革命⁽³⁶⁾が勃発し、2000年以上続いた皇帝制度が崩壊した。この事態は近代化を模索する日本の天皇制において、その存続に影響を与えることになった。なぜなら日本の天皇制は制度的には中国の皇帝制度にその根源をもっていると考えられていたため、天皇制もいつかは廃止されるのではないかという問題が生じたからであった。この問題について東京帝国大学の白鳥庫吉は、中国史についての豊富な知見を駆使して中国の皇帝と日本の天皇との違いを以下のように説明してみせた。すなわち中国では王あるいは皇帝とは天という絶対的な存在の命令を受け入れる者であり、そのため天命が⁽³⁷⁾革まるごとに王朝の交替がおこっていた。しかし日本においては王朝の交替がない。それは、天皇が中国における最高位である天に相当するものであるため、天皇制は天がなくなると同様に絶対に廃止されることはないというものである。白鳥はこれによって明治政府の中央集権的天皇制を学問的に支えることになった。

その一方で中央集権化という政治体制の構築に対して別の考えをもつ者も存在した。19世紀後半～20世紀初頭にかけて活躍したジャーナリストの山路愛山である。彼は新聞記者であるかたわら歴史に関する叙述も残し、平民史家⁽³⁸⁾としても知られる。数多くの著作の一つに『日漢文明異同論』という歴史論がある。1907(明治40)年に出版されたこの書では、19世紀半ばに同じような危機に陥った日本と中国について、それぞれの半世紀後、前者が不平等条約の改正を達成し、後者はより厳しい状態になっているとの認識を示す。そのうえで山路は、この両者の違いがなぜ生じたのかという問題に一つの解答を提出しようとする。100年以上も前の古い歴史論であるが、彼の提出した解答から歴史的なものの見方ということを考えてみることにしよう。

19世紀半ば、すなわち山路のこの著作が出版される半世紀ほど前、欧米によっ

て両国はほぼ同じ時期に開国⁽³⁹⁾させられた。列強の不平等条約体制の推進⁽⁴⁰⁾は、両国を経済的にも政治的にも困難な状態へと突き落とした。両国の近代化は、この独立の危機⁽⁴¹⁾のただなかから開始せざるを得なかった。しかしそれぞれの近代化への模索は、その半世紀後の段階において、対照的な状況をもたらした。これは、山路にいわせれば、日本の近代化への諸改革⁽⁴²⁾が成功し、中国のそれが失敗したということになる。両国を隔てたものは何か。この問題にはさまざまな要因が指摘できるのであろうが、山路は、この近代化への成功・失敗の原因を、両国の歩んできた歴史の違いに求めた。その歴史とは、中国史を通して絶えず政治的に議論されてきた、封建と郡県という考え方に関連するものであった。

中国史における政治体制における大変革の一つは、封建制から郡県制へという変化である。封建制は、前11世紀ころ殷王朝を滅ぼした西周王朝によって採用されたといわれる。殷代では、殷王の地方支配は、地方の部族長とのあいだで結ばれた同盟関係を通して行なわれていたため、王の意思は直接には地方に届かなかった。そのため殷に取って替わった西周は王権の強化を図ることを目的に、王の近親者などを諸侯として地方に派遣し、それを部族長の上に位置づけ、地方支配の主導権を握らせた。この方法によって王の意思は直接地方に届くことになった。これが封建制度である。ただこの制度では諸侯の地位は世襲とされたため、その地位につく諸侯は世代交替とともに周王からは血縁的に疎遠となる。また封建された地域では、諸侯が部族長との婚姻関係を強めることで土着化していく。そのため、封建制は王の意思を直接地方に及ぼすことができなくなり、封建は結果的には地方分権を意味することとなった。

戦国時代を生き抜くために各地域では君主権の強化がはかられた。君主権にとって封建制の弱点は地方を支配する者の地域的自立にあったから、それへの制度改革は、地方を支配する者を中央から派遣し、その地位の世襲を否定し、かつそれに任期制を導入することによって、地方を支配する者と地域との土着を断ち切る道に向かった。それが郡県制である。これは地方を支配する者の官僚化を進めることになり、官僚制の成立をうながすものとなった。中国を統一した秦の始皇帝⁽⁴³⁾が郡県制を全国的に展開して以降、王朝は幾たびか交替したが、郡県制は皇帝制度を支え、およそ2000年余りにわたって中央集権体制の制度的土台となっ

た。したがって封建から郡県へという制度的変化は、地方分権社会から中央集権社会への変革を意味することになった。

しかもこの郡県制は、時代とともに皇帝権力の強化へとその制度を発展させていった。たとえば秦・漢時代の県においては、中央から派遣された県の長官こそその県以外の出身者が充てられていたが、その下にいる実務担当官には、その県出身者が採用されていた。それが隋・唐時代以降になると、県の官僚はその県出身者をすべて除外するようになつた。これは秦・漢時代より隋・唐時代の郡県制の方が、官僚の土着化を防止するうえでは効果的な制度であり、皇帝による中央集権化の度合いがより強化されたことになる。しかしこれを民の側からみれば、隋・唐時代以降の県においては、県所属の官僚すべてと民との関係が疎遠なものとなり、官僚は民の生活のことなど無視する傾向をもつに至つた。そのため王朝末期の混乱期には、こうした官僚と民との関係の希薄化という郡県制の弊害を指摘し、封建を復活せよといった議論もしばしば登場した。そもそも封建は、孔子が理想とした西周初期の政治体制であり、儒学と郡県制とはもともと相容れないものであった。しかし儒学は漢代以降、中央集権的な皇帝支配の土台である郡県制と折り合いをつけていった。⁽⁴⁴⁾

山路は、封建と郡県とをこのように理解し、その歴史的特質をもった郡県制下の中国における社会や民の性格を問題にする。たとえ皇帝に徳治の思想があつたとしても、郡県制は官僚と民との間を疎遠にしていたために、皇帝の徳治は民に届かず、民は、自己の生活は自分で守っていかなければならない状況に追いやられた。その状況は、民を自分さえ良ければよいという利己主義へとしだいに向かわせる。そうした個人が集合した社会は、社会内の団結、あるいは相互扶助・共同といった精神をしだいに減少させていく。山路は、この郡県制下で失われていった地域的な団結・相互扶助・共同といった精神こそが封建の要素であると考えた。とくに2000年間、郡県制が存続した中国においては、秦・漢時代の社会にはまだ残存していた封建の遺風は、隋・唐時代以降徐々に弱まり、20世紀初頭の段階では全くなくなり、個々人がバラバラで利己主義を追求する社会を出現させてしまったと山路はいう。⁽⁴⁵⁾山路はこうした中国史の流れを分析して、19世紀半ば以降に独立の危機を迎えた中国には、これに対応できる力、すなわち団結・協力

して事に当たるといふ封建の遺風が社会に存在しておらず、そのため中国の近代化⁽⁴⁷⁾は、20世紀初頭の段階では失敗に終わっていると結論づけたのであった。

では山路は、日本についてはどう考えるのか。19世紀なかばに列強の不平等条約体制に組み込まれ独立の危機に遭遇した江戸幕府⁽⁴⁸⁾は、それに対応できずに滅亡していく。それに取って替わった明治政府は、近代化を中央集権的社会への変革を通して推進しようとした。江戸時代は中央には幕府、地方には藩という幕藩体制をとっていた。そこでは幕府という中央政府は存在したが、地方は藩が支配するという構造をもち、幕府といえども藩の内部に権力を浸透させることは容易ではなかった。したがって幕藩体制とは地方分権の社会である。江戸時代は、その意味で封建社会なのである。そして日本における封建から郡県への変革の時期は明治維新と理解されることになる。そのため山路がこの歴史論を記したときは、明治維新後、すなわち中央集権化（郡県化）後いまだ40年しかたっておらず、日本の社会には、封建の遺風が至るところに存在していて、団結・相互扶助・共同といった精神が社会に根強く残存していた。その日本が独立の危機を迎えたとき、利己主義にはしる中国とは異なり、団結・協力するという風俗を存していた日本の地域社会は中央集権化を目指す明治政府を支えたというのであった。つまり山路にとってみれば、日本社会にまだ色濃く残っていた封建の存在こそが、日本の近代化を早期実現に導いた一因⁽⁴⁹⁾であったのである。

ただ日本も郡県の時代になってすでに40年が経過したため、もともと中央集権と矛盾する封建の遺風は、かつての中国の歴史がそうであったように、日本社会からも徐々に失われていき、利己主義が出現し始めていると山路は感じ取る。その利己主義が出現する一例として山路が挙げたのが、戦地⁽⁵⁰⁾にいる弟に対して「君死にたまふことなかれ」という詩をつづった与謝野晶子であった。この利己主義・個人主義への批判は、自己よりも団結が、個よりも共同が大切であるという山路の歴史論をよく示している。中国と日本の現実の問題を、長期にわたる両国の歴史のなかから考えていくという山路の姿勢には、今日でも学びとるものがあるように思う。

今日、地方分権が謳われてはいるが、それがなかなか軌道に乗らず、依然として国家が前面に出てきている日本の状況を、歴史的に考えるとしたらどうとらえ

られるのであろうか。

〔設問36〕 下線部(36)に関連して、辛亥革命前に展開された立憲派と革命派についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **36** にマークしなさい。

- ①立憲派は、留学生のほとんどをアメリカ合衆国に派遣し人材を育成した。
- ②革命派はハワイで興中会を結成し、武昌で武力蜂起を繰り返した。
- ③立憲派は光緒新政を支持し、郷紳などの協力を得て鉄道を国有化して財政を再建しようとした。
- ④革命派は進化論・人種論にもとづき、満洲人を排した漢人国家の建設を主張した。

〔設問37〕 下線部(37)に関連して、天と人との関係はいわゆる諸子百家の重要な関心事であった。諸子百家の記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **37** にマークしなさい。

- ①墨子は、血縁関係を重視し軍事強化が何よりも大切であると説いた。
- ②蘇秦は、各国に秦との同盟が重要であると説いた。
- ③孟子は、王道政治を理想として、易姓革命を唱えた。
- ④荀子は、礼よりも生来の悪の心をもつ人を慈しみ育てることが大切であると主張した。

〔設問38〕下線部(38)に関連して、平民史家とは、官学アカデミズムとよばれた帝国大学における歴史学に対抗した呼称である。当時、その帝国大学に創設された東洋史学にあつて、東京の白鳥と京都の内藤湖南との間で行なわれたのが、今日までも続いている邪馬台国が存在した位置についての論争である。白鳥の解釈は、内藤が主張する畿内の地には後の天皇につながる大王が在位していたため、大王ではない卑弥呼がいるはずはなく、邪馬台国は九州北部になくてはならないというきわめてイデオロギー的なものであつた。邪馬台国の卑弥呼に金印を授与した王朝はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **38** にマークしなさい。

- ①後漢 ②魏 ③西魏 ④東魏 ⑤西晋

〔設問39〕下線部(39)に関連して、中国が開国させられたのはアヘン戦争の講和条約によってであるが、この条約で開港された場所はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **39** にマークしなさい。

- ①旅順 ②天津 ③泉州 ④福州 ⑤香港

〔設問40〕下線部(40)に関連して、中国は、その後つぎつぎと不平等条約を締結させられたが、アロー戦争後に結ばれた天津条約、それを補強した北京条約で認められた事柄はどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **40** にマークしなさい。

- ①キリスト教の内地布教権を認める。
②イギリスへ九竜半島全域を割譲する。
③ドイツが山東半島を租借する。
④公行を廃止する。

〔設問41〕 下線部(41)に関連して、19世紀末にはほぼ完了した列強による中国分割は、中国民衆に反帝国主義運動をより一層高揚させた。義和団運動もそのなかでおこったが、列強はこれを自国民の安全確保を名目として、中国の主権を侵害する8か国共同出兵を行なった。この8か国に含まれない国はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **41** にマークしなさい。

- ①ロシア ②オーストリア ③オランダ ④イタリア ⑤日本

〔設問42〕 下線部(42)に関連して、この諸改革に含まれないものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **42** にマークしなさい。

- ①外国人専門家の招聘^{しょうへい} ②東学の普及 ③官営工場の設立
④憲法の制定 ⑤議会の開設

〔設問43〕 下線部(43)に関連して、秦の始皇帝の統一事業についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **43** にマークしなさい。

- ①文字を楷書に統一した。
②五銖錢を統一の貨幣として鑄造した。
③車の車輪の間の幅を統一した。
④すべての書籍が焚書の対象となった。

〔設問44〕 下線部(44)に関連して、前漢の武帝時代に、儒学の官学化に寄与し、皇帝支配に理論的基礎を与えた儒学者がいる。この儒学者の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **44** にマークしなさい。

- ①董仲舒 ②鄭玄 ③許慎 ④張衡 ⑤蔡倫

[設問45] 下線部(45)に関連して、歴代王朝は皇帝による徳治主義をその統治の基本としてきたが、支配者層の権力乱用は止まなかった。それは宦官や外戚とよばれる者の専横となって現われ、宦官や外戚の政争が社会に混乱をもたらした。それが原因の一つとなって宗教結社を中心として2世紀に引き起こされた反乱はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **45** にマークしなさい。

- ①赤眉の乱 ②紅巾の乱 ③陳勝・呉広の乱 ④黄巢の乱
⑤黄巾の乱

[設問46] 下線部(46)に関連して、明末清初期に活躍した顧炎武も、明滅亡の原因の一つに、郡県制強化による弊害、すなわち中央集権体制の徹底化によって社会内部に封建の要素が欠如してしまったことにあるとして、県の官僚と民との疎遠を、漢代のような封建の一部復活によって修正すべきであることを説いた。明代に関する説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **46** にマークしなさい。

- ①蒲松齡が『聊齋志異』を著わした。
②宮廷画家によって院体画が発達した。
③徐光啓が『農政全書』を編纂した。
④郎世寧が円明園の設計に加わった。

〔設問47〕 下線部(47)に関連して、清末に、民の声を吸い上げる下意上達を可能とする機構としての議会を開設することによって、上意下達の郡県体制から立憲君主体制へと改革し、これをもって封建を復活しようとする主張する改革（変法）運動がおこった。この運動についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **47** にマークしなさい。

- ①この改革運動を指導した康有為は、公羊学派であった。
- ②この運動は、光緒帝・西太后の支援を得て行なわれた。
- ③この運動に反対する勢力は、指導者の一人である梁啓超を暗殺した。
- ④章炳麟は、亡命先の日本においてこの改革運動に賛同し参加した。

〔設問48〕 下線部(48)に関連して、江戸幕府は幕藩体制を維持するため、17世紀前半には鎖国体制を固めた。それでも対馬・長崎では外国との貿易が制限つきながら続けられた。ヨーロッパ諸国のなかでは、オランダのみがこの貿易に参加することができた。その貿易の中心にオランダ東インド会社があった。この会社はアムステルダムに設立されたが、そのアジアにおける貿易の根拠地はどこか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **48** にマークしなさい。

- ①マカオ ②マニラ ③シンガポール ④ブルネイ ⑤バタヴィア

[設問49] 下線部(49)に関連して、封建制を地方分権の意味としてとらえ、山路とは異なった観点からその存在に注目した歴史論がある。それはライシャワーらの近代化論である。この論は、封建制が顕著に存在することが近代化の実現にとって有利にはたらくとし、非ヨーロッパ地域で日本だけが短期間に近代化を達成できたのは、日本に封建制が存在したことに原因があると主張する。そのライシャワーは1961年に駐日アメリカ合衆国大使として着任するが、その在任中は本格化したベトナム戦争に対する日本の反戦運動への対応に追われた。ベトナム戦争の和平協定が締結された都市はどこか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **49** にマークしなさい。

- ①ロンドン ②パリ ③ベルリン ④北京 ⑤ハーグ

[設問50] 下線部(50)に関連して、この戦争は、山路の著述が刊行される2年ほど前に終結したが、その講和条約についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **50** にマークしなさい。

- ①日本が山東半島の租借権を得る。
②台湾を日本の植民地とする。
③日本に東清鉄道の南半分のハルビン―旅順間の利権を与える。
④サハリン（樺太）島の南半分を日本の領有とする。